

静かな時間を通しての気づき 対象5歳児 年長
作成日2020年2月19日(水) 作成者 進藤 早苗
保育のねらい：お茶のお稽古を通して、相手を大切にすることを育む。



保育の振り返り

2学期より石津先生とのお茶のお稽古を少しずつしてきました。歩き方、座り方、お辞儀の仕方、道具の持ち方や、手の添え方。お作法に従って手順を教えてくださいました。初めは恐る恐る触っていた子どもたちも、回を重ねる事に自信を持ち、友達同士で「ここはこうするんだよ」と教え合う姿も見られるようになりました。お茶のおもてなしでは、どんな気持ちでどういう振る舞いをしたら、お客さんが気持ちよく過ごせるか？を考えながらお作法を学ぶことができました。振り返っていくと相手(他者)の事を考える時って、心配したり怒ったりする場合があります。友達との関りの中で人を傷つけたり、傷つけていることに気付いていなかったりすることもありました。私も保育教諭として大切なことを見落としていたことにも気づきました。みんなが気持ちよく過ごすためにはどうしたらいいか・・・お茶の時間だけでなく、毎日の過ごし方でも大切なことです。言葉で表現することで嬉しくなることばかりではなく、誤解したり、悲しい気持ちにさせたりと沢山あると思います。子ども達とその都度どうしたらいいかを一緒に考え、話し合いをし行動していく大切さを学んだ日でした。

(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現、社会生活との関わり、道徳性・規範意識の芽生え、自立心)